

チャレンジネット

第 5 号

平成29年12月21日

富山県立富山総合支援学校

進路指導部

中学部の進路学習

中学部主任 廣瀬 真理

中学部では、小学部で身に付けた力を確実に定着し、その力を様々な場面で発揮できるようにしたり、さらに伸ばして新しい知識や技術を習得できるようにしたりするなど、個々の生徒に応じた学習に取り組んでいます。

進路についての学習も重要なものとして位置づけ、必要に応じて進路相談の時間を設けて進学に対する意識を高めるとともに、高等部卒業後をも踏まえた学習を行っています。今学期は、三つのグループに分かれて学習しました。

このうち二つのグループは、総合的な学習の時間に、将来のことについて考える学習をしました。卒業後に必要な力は何か、自分の考えをまとめてグループで話し合ったり、高等部での作業学習、さらには事業所や施設で行う作業についての学習に取り組んだりしました。その後の校外学習で、就労支援事業所や生活介護施設を見学したり、それぞれの事業所や施設のきまりに従って作業体験をしたりしました。利用者の方々が実際に働く姿を見て、生徒たちは「働くこと」「社会に出ること」について、より身近なものとして考えることができました。また別のグループは、自立活動の時間に、手や腕の動かし方、見る力の向上をねらって、卓上ボウリングの活動に取り組んできました。そして、生活単元学習の時間に、休日や高等部卒業後の余暇活動の幅を広げることを目指して公共施設の利用の仕方を学び、校外学習では、訪れた商業施設でボウリングを体験してきました。学校では味わえない本格的なボウリング場の雰囲気を感じながら、自立活動の時間に付けた力を十分に発揮することができ、貴重な体験となりました。

進路についての学習は、保護者の皆さんとの連携、協力が重要です。個々の生徒が、中学部段階で必要なことは何か、一緒に考えながら、今後も学習を進めていきたいと思っています。

中学部の取組（校外学習）について

～A班 ジョブステーションさくら北部事業所～

「ジョブステーションさくら北部事業所」に行ってきました。作業体験は、皆さんが熱心に仕事をされている中、4名も黙々と作業に取り組みました。利用者の方や職員の方からは、働くために家庭生活で身に付けておくことは何か、職場でのコミュニケーションで大切なことは何かなど、たくさんのアドバイスをいただきました。



～B班 いみず苑～



社会福祉法人 射水福祉会「いみず苑」に行ってきました。施設見学で職員の方から説明を聞き、次に作業室で作業を体験してきました。
たくさんの人が、長い時間、一生懸命作業をしておられることが分かりました。

～C班 ワンダーボウル～

アピタ富山東店内「ワンダーボウル」に行っておウリングをしてきました。いつもと違う雰囲気の中、練習した投げ方でボウルを転がし、ピンが倒れる様子を見たり、聞いたりしました。校内で取り組んできた学習の成果を発揮して楽しむことができました。



小学部の取組（校外学習）について



～1班～
買い物学習では、初めて自分でお金を払ったり、お釣りをもらったりしました。



～2班～
生活の中で知っておきたいマークの学習の一環として、ショッピングセンター内でマークを探しました。

～3班～
中央植物園で木の実の工作体験をしました。いろいろな木の実に触れながら作品を作りました。施設見学を通して、公共のマナーを学びました。



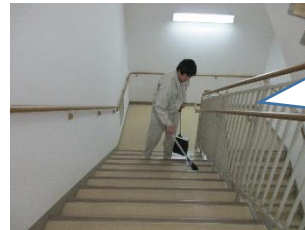
～4班～
大島絵本館で、パソコンを使った作品制作に取り組みました。係の方の説明をよく聞いてカレンダーやエコバッグを作りました。



初めての就業体験を終えて（高等部1年生）



パプリカの袋詰めをしています。



階段清掃をしています。



ラベルを貼る作業をしています。



シーツの仕分けをしています。

生徒の感想より

- ・洗濯物の仕分けをしました。量や種類がたくさんあり、大変でしたが、間違えずにしっかりと仕分けをすることができました。
- ・良かった点は、終了時刻まで休まずに取り組めたことです。反省点は、挨拶の声が小さかったことです。
- ・働く人の大変さが分かりました。お店の品出しをしましたが出しても出してもどんどん減っていくので大変でした。
- ・体験先では、仕事の大変さ、挨拶や言葉遣いなどを学ぶことができました。

保護者より

- ・時間を守ること、身だしなみに気を付けることを言い聞かせました。
- ・本人の成長が感じられ良い体験になったと思います。充実した5日間でした。
- ・就業体験を通して、将来就きたい仕事を見つけることができたらしいです。
- ・体験先で注意されたことを忘れずに意識して、これからも過ごしてほしいです。

体験先より

- ・公共の場において最低限のマナーやルールを身に付けてほしいと感じました。
- ・初日から緊張が見られましたが、少しずつ慣れ、声も出るようになりました。
- ・注意されたことを自分で意識して改善する姿がみられました。
- ・挨拶も返事もはきはきとして、大変気持ち良かったです。
- ・指示したことは、最後まできちんとやり遂げることができました。期待以上の働きでした。

ちょっと気になる進路情報5



移行支援会議について

本校では、高等部卒業後、進路先にスムーズに移行するため、12月～2月に移行支援会議を開催しています。企業就労する際にも必要に応じて、福祉サービス利用の際には、相談支援事業所と連携し、実施しています。下記に、生活介護事業所を利用する場合の会議の参加者や内容について紹介します。

参加者：(本人) 保護者

相談支援事業所の相談支援専門員

利用予定の生活介護事業所担当者

担任、学年主任、進路指導主事など学校関係者 等

協議する内容

- 学校で支援してきたこと。
- 卒業後、どんな生活をしたいのか。(何曜日に施設を利用したい。・・・)
- どんなサービスが必要なのか。
(入浴サービスは？ 送迎サービスは？ 移動支援は？ ショートステイは？ ・・・など)
- どこ(事業所)で、どんなサービスができるのか。(できないのか。)



相談支援事業所等による

サービス等利用計画の作成

～スムーズなサービス利用につなげるために～

- ◆ 身近なところにある事業所を調べたり、見学したりしてみましょう。
(小学部・中学部のときから、関心をもっていただけたらと思います。)
- ◆ 放課後等デイサービスがあれば、在学中に利用してみましょう。
(在学中からの利用が、卒業後のスムーズな利用につながります。)

～最近、卒業生が利用している事業所～

ぼらハートのいえ、つくしの家、だいたい水橋、このゆびと～まれ、あゆみの郷、ひまわりの郷、ありがた家、富山病院、いみず苑、ふらっと、高岡障害者福祉センター、デイケアハウス手をつなごう 等 (略称にて記載)